

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

発熱の原因が分からない、どの診療科を受診したらいいか分からないといった患者に対応する総合診療科・感染症科。県立中央病院は昨年4月から診療を始め、今年3月まで1年間の外来患者は延べ3千人以上に上った。今年6月には病院1階に新たに診察室を設け、さらなる充実を図る。同科では研修医がさまざまな病気を併せ持つ患者の心身を診ることが可能で、総合診療医養成の場としても期待されている。

「患者さんから細かく丁寧に話を聞き、しっかりと診察する。病気によっては適切な専門科に紹介することを心掛けている」



秋山裕太郎医師

患者の心身を診る力養成

《 108 》

と話すのは後期研修2年目の秋山裕太郎医師。

現在の臨床研修制度では、新人医師は各診療科を経験する初期臨床研修(2年)後、専門とする診療科を決め、後期研修(3～5年)で専門医の資格取得に必要な知識や技術を得る。県立中央病院の総合診療科には現在、初期研修医2人が在籍。三河貴裕医師と、秋山医師ら後期研修医2人が指導に当たっている。

新設され、広くなった診察室では初期研修医が週2回、上級医の立ち会いのもと初診患者を診察できるようになった。「初期研修医が外来から退院まで患者さんに関われる場は少ない」と

秋山医師。臓器別専門科の勉強がメインとなる初期研修で、総合診療科は複数の基礎疾患を抱える患者を全人的に診ることができる貴重な機会。同病院の研修プログラムでは同科での研修が1年次の必修となっている。

同科では退院後の生活や再発予防に気を配った診療を実践。医師や研修医が、事前に退院先となる療養病院や自宅を訪問し、問題点を改善するなど積極的に患者の生活に関わっている。

秋山医師は「病気だけでなく、1人の患者さんとしつくり向き合えるのが総合診療の魅力。患者さんが訴えるさまざまな症状に対応できる医師になりたい」と話している。

Ⅱ第2、4木曜日に掲載します



上級医が見守る中、診察する初期研修医＝甲府・県立中央病院